

# 第2章 世界の諸地域

2章のねらい 世界の各州における地域の特色や、その特色と地球的課題との関係をとらえよう。

## 学ぶにあたって

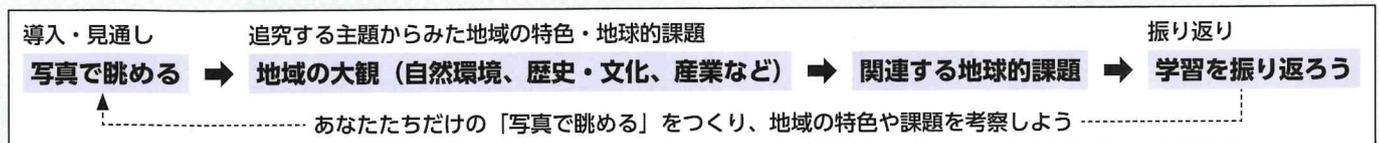
第2部第1章では、さまざまな自然環境の下で暮らす人々の生活の工夫や近年の生活の変化、さまざまな宗教と生活との関わりなどを学習してきました。

第2章では、p.3 図5で学習した世界を六つの州に分ける方法を利用して、世界の諸地域を学習します。各州には、地域を追究する主題が設定してあり(図3)、この主題に沿って、地域の特色をとらえていきます。

各州の特色をとらえる際は、州ごとの自然環境や歴史・文化、産業といった地域の特色を学習します(図1・2)。そのなかで、経済格差や熱帯林の破壊など、地域にみられる課題にも目を向けてみましょう。これらのなかには、地球規模で共通してみられる地球的課題もあります。これらの課題を解決するための方法を追究することが、私たちが暮らす地域をよりよくするためのヒントにもなります。



↑1 地域の特色と地球的課題の関連を示した例 地域の特色は地球的課題にも結びついています。例えば、ブラジルは世界有数の牛肉の輸出国です。牛肉の輸出は、国の経済を支える大きな産業であり特色の一つになっています。しかし、牛を飼育する牧場は熱帯林を伐採してつくられるため、熱帯林の破壊や、地球温暖化という地球的課題を引き起こす原因にもなっています(→p.114)。



↑2 第2部第2章における各州の学習の展開

州	地域を追究する主題	注目する地球的課題	州	地域を追究する主題	注目する地球的課題
アジア州	急速な経済成長	都市・居住問題	北アメリカ州	巨大な産業	生産と消費の問題
ヨーロッパ州	国どうしの結びつきの強まり	経済格差	南アメリカ州	農地や鉱山の開発	熱帯林の破壊
アフリカ州	特定の産物に頼る経済	食料問題	オセアニア州	他地域との関係	多文化の共生

↑3 各州における地域を追究する主題と注目する地球的課題

写真で眺める  
アジア州



シャンハイは活気がありそうな街だね。中国のどの辺りにあるんだろう？

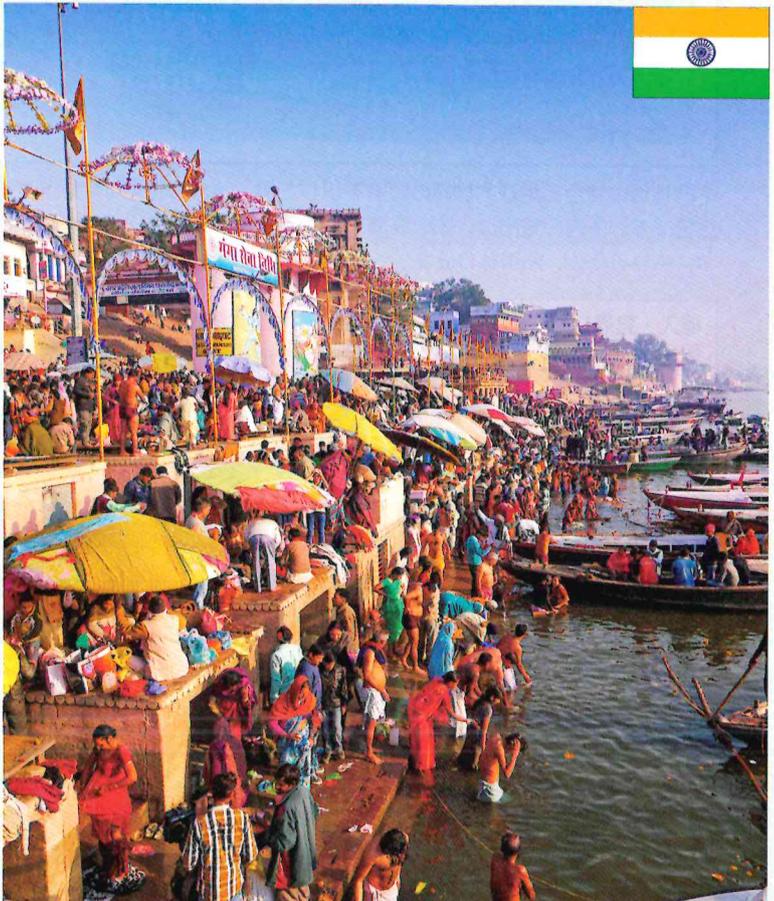


↑1 シャンハイ(上海)の高層ビル群(中国、2018年) シャンハイの中心部には近代的なデザインの高層ビルが立ち並び、多くの観光客が訪れます。 ➡ p.51、53



↑2 キムチを漬け込む行事(韓国、ソウル、2018年11月) 韓国には、冬を迎える前にキムチをみんなで漬け込む伝統行事があります。 ➡ p.54

➔E ガンジス川で沐浴をするヒンドゥー教徒(インド、バラナシ) ガンジス川は、ヒンドゥー教徒にとって「聖なる川」です。人々は川で身を清めて祈りをささげます。 ➡ p.51、58



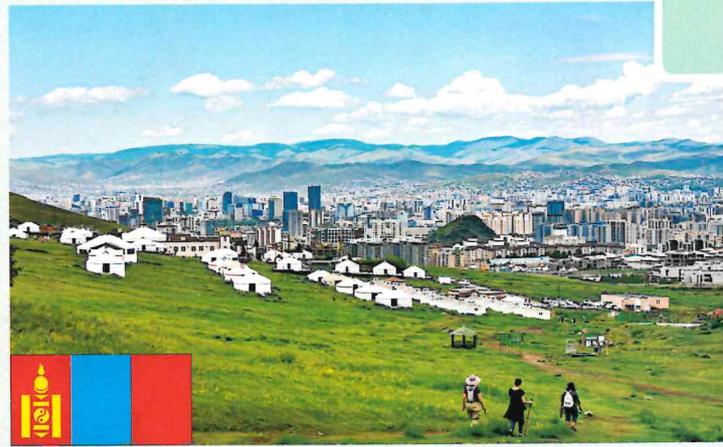


**地図帳活用**  
アジア州の地図や鳥瞰図を眺めよう。

広いアジア州では、地域によって人々の生活や盛んな産業に違いがありそうですね。それぞれの地域には、どのような特色があるのかな？



↑4 イスラム教のモスクと広場でくつろぐ人々(イラン、イスファハーン、2017年) → p.51、61



↑5 移動式の住居とビルが立ち並ぶ街(モンゴル、ウランバートル、2018年) → p.50

→ ↓6 シンガポールの象徴であるマーライオン(右)(2018年)と空中散歩を楽しめる植物園(下)(2019年) → p.51、56



**アジア州の学習を見通そう**

→ p.63の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺めるアジア州」をつくらう

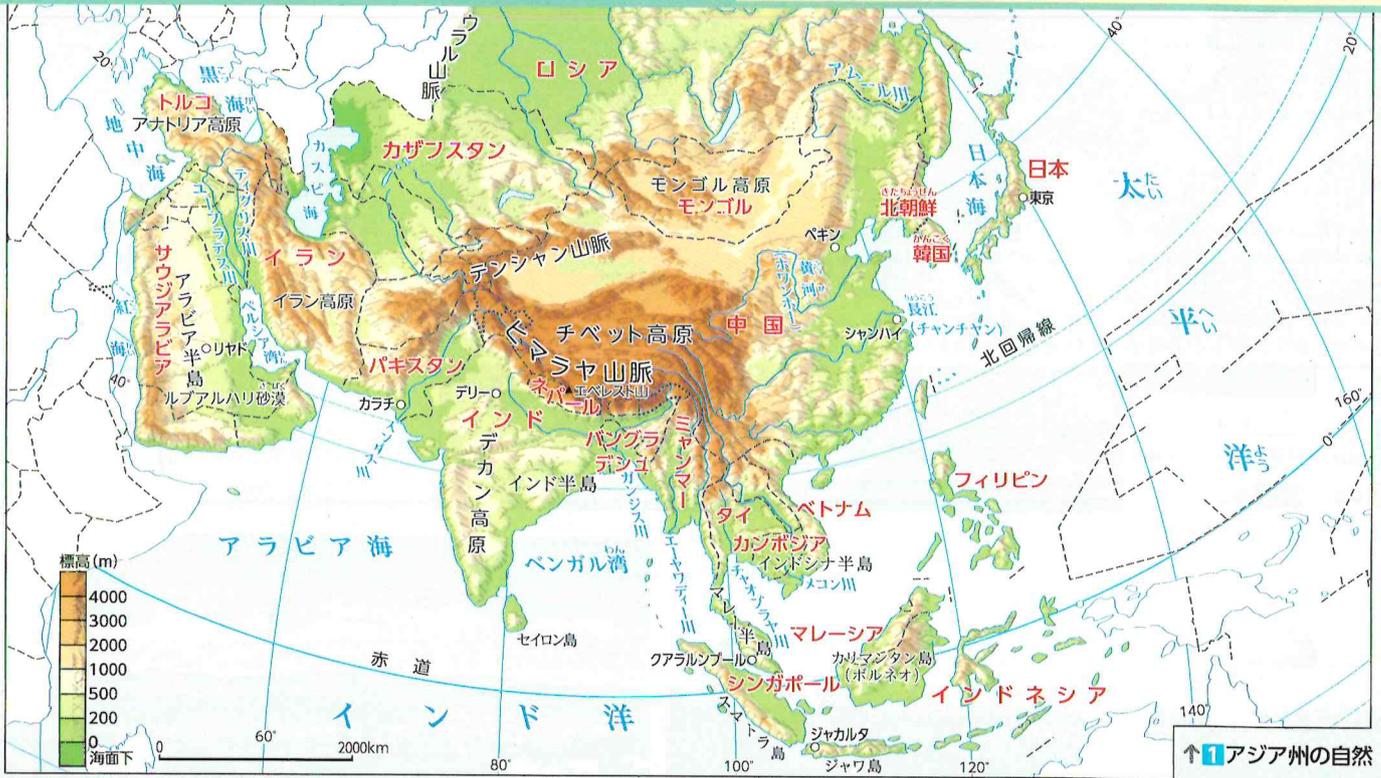
この節では、特に写真1や6にみられるようなアジア州における「急速な経済成長」を主題に、アジア州がどのような特色をもつ地域なのか、学習していこう。



見通しスライド



1節の問い アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



## 1 アジア州の自然環境



アジア州は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

### ユーラシア大陸に広がるアジア

広大なアジアには、トルコから東のユーラシア大陸と、それを囲む太平洋とインド洋に、

約50の国があります。大陸の中央には、ヒマラヤ山脈とチベット高原からなる高地があり、そこから流れ出す黄河や長江、メコン川、ガンジス川、インダス川などの河川がつくった低地が周辺に分布しています。これらの低地では、古くから農業が行われ、都市が発展してきました。

日本は、ユーラシア大陸の東に沿って連なる島々の一部です。大陸に目を向けると、トルコからインドシナ半島まで山々が連なっています。そして、マレー半島の先にはインドネシアの島々があります。これらの地域では、地震がよく発生し、火山もみられます。一方、ヒマラヤ山脈の南側では、インド半島がインド洋に向かって突き出しています。インド半島の西には、イラン高原やアラビア半島があり、その大部分は砂漠に覆われています。

	オセアニア 6.5				
面積 1億3009万km <sup>2</sup>	アジア 23.9%	ヨーロッパ 17.0	アフリカ 22.8	北アメリカ 16.4	南アメリカ 13.4
人口 79億7510万人	アジア 59.2%	ヨーロッパ 9.3	アフリカ 17.9	北アメリカ 7.5	南アメリカ 5.5

※ロシアはヨーロッパ州に含む。(2022年) [Demographic Yearbook 2022]

### ↑2 世界に占めるアジア州の割合



↑3 アジア州の地域区分 ロシアのうち、ウラル山脈より東側はアジア州に属し、シベリアとよばれます(→p.36)。

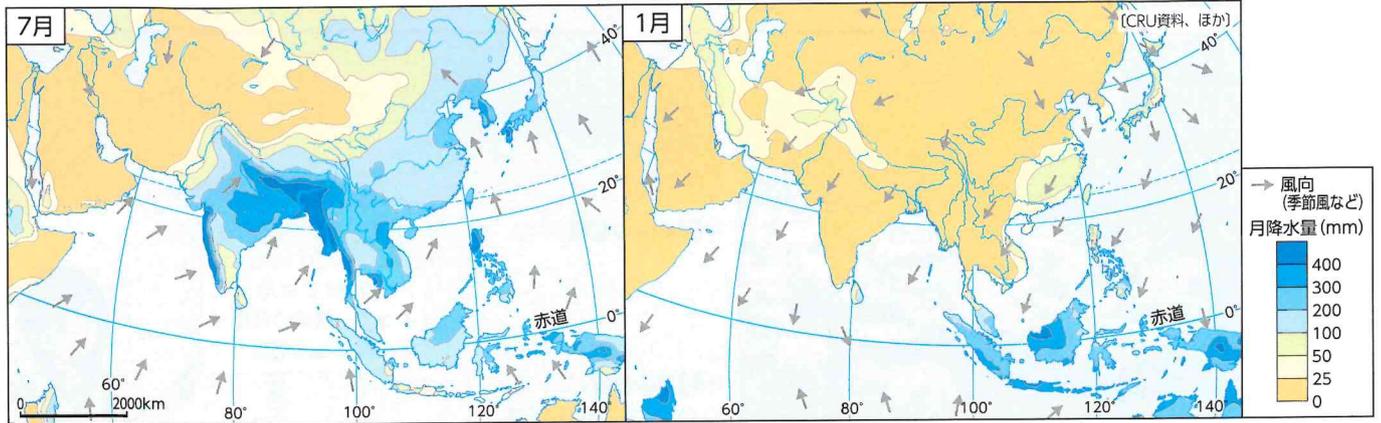


雨季(7月)



乾季(1月)

↑4 雨季と乾季のトンレサップ湖の様子(カンボジア、左：2015年、右：2016年) **資料活用** 同じ場所を撮影した2枚の写真を比べて、雨季と乾季で異なる点に注目しよう。



↑5 季節風(モンスーン)の風向きと降水量の変化 **資料活用** 写真4のトンレサップ湖の位置を地図帳で確認し、7月と1月の降水量に注目しよう。

**季節風の影響と  
アジアの気候**

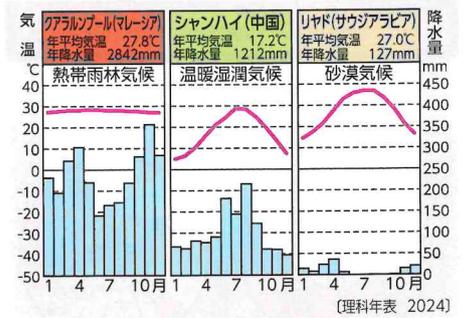
アジアには、五つの気候帯のすべてがみられます。赤道の近くは、一年中気温が高く雨の多い熱帯です。そこから緯度が高くなるにしたがって、四季のはっきりした温帯、冷涼な亜寒帯(冷帯)へと移っていきます。北極海の周

5 辺やチベット高原などの高地は、寒さの厳しい寒帯です。また、西アジアから中央アジアにかけては、雨があまり降らない乾燥帯となっています。

日本のように海に囲まれた地域はおおむね湿潤で、1年を通して雨が降ります。しかし大陸では、海から吹く**季節風(モンスーン)**によって、雨がもたらされるかどうかで降水量が異なります。南アジアから東アジアにかけては、海から湿った季節風が吹く夏が、雨の多い**雨季**となります。そして夏とは反対に、内陸から乾いた季節風が吹く冬が、雨の少ない**乾季**となります。一方、中央アジアなどの内陸は、海から吹く季節風の**影響**を受けにくいので、1年を通して雨はあまり降らず、乾燥した気候となります。

**地図帳活用**

アジア州の降水量の季節による変化を、自然環境の図と併せて確認しよう。



↑6 アジア州の主な都市の雨温図

**確認しよう** 大きな半島の名前を、東南アジア、南アジア、西アジアの順に図1や地図帳で確認しよう。

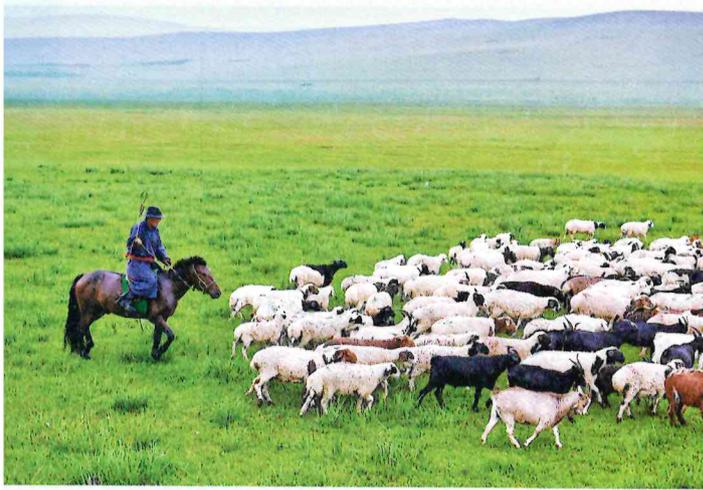
**説明しよう** アジア州の気候の特徴を、図5を活用して、季節風との関わりから説明しよう。



←1 水田での田植え(インド、コーチ近郊、1月)



↑2 小麦の収穫(中国、ホーベイ(河北省)、2020年6月)



←3 羊の遊牧(モンゴル、ウランバートル近郊、2016年8月)

アジア州では地域によって、農業の特徴が全く異なるんだね!



## 2 アジア州の農業・文化と経済発展

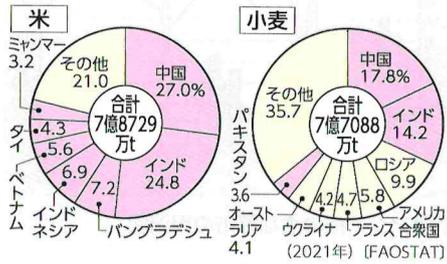
1節の問い アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

**学習課題** 多様な自然環境が広がるアジア州では、どのように農業や文化が生まれ、人口が集中する地域が形成されてきたのだろうか。

**気候と農業・食の結びつき** 季節風の影響で湿潤な東アジアから南アジアにかけては、平野部に多くの人が暮らし、農業を盛んに行ってきました。特に降水量が多い、インドのガンジス川流域や中国の南部、東南アジアの平野では、**かんがい**によって稲作が広く行われています。これらの地域の主食は米で共通していますが、米の種類や調理方法、食べ方は地域によってさまざまです。

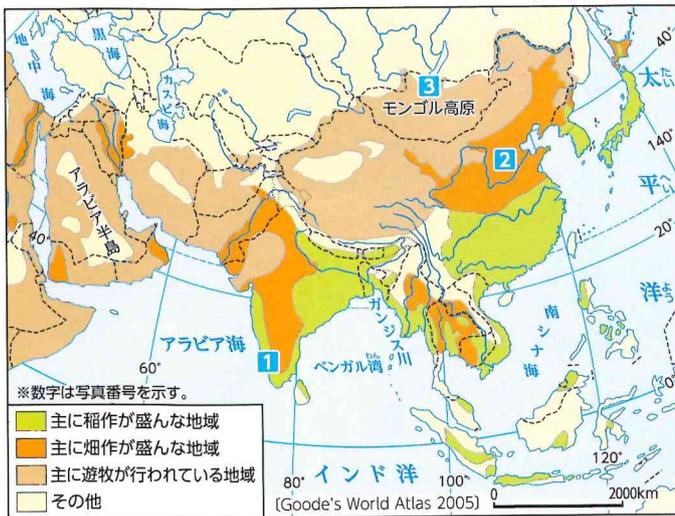
降水量がやや少ないインドの西部や中国の北部では、畑作で、小麦やとうもろこしなどが栽培されています。小麦は粉にして、めんや薄く焼いたパンなどに加工して食べられています。

乾燥した内陸や西アジアでは、水を得やすいオアシス以外では農業が難しいので、羊やらくだなどの家畜を飼う遊牧が行われています。モンゴル高原やアラビア半島に暮らす人々は、遊牧生活を行いながら、家畜から得られる肉や乳を食料としています。

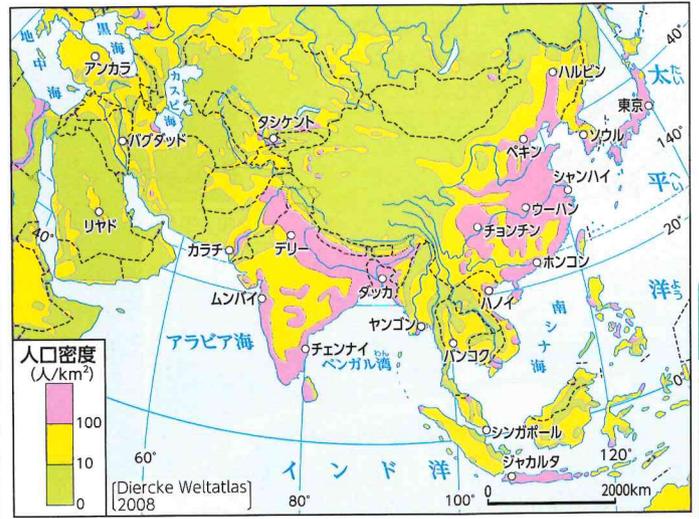


↑4 米と小麦の生産

**解説 かんがい**  
農作物に与えるための水を、河川や湖、ため池などから水路を通して引き、農地を潤すことです。



↑5 アジアの農業地域



↑6 アジアの人口密度

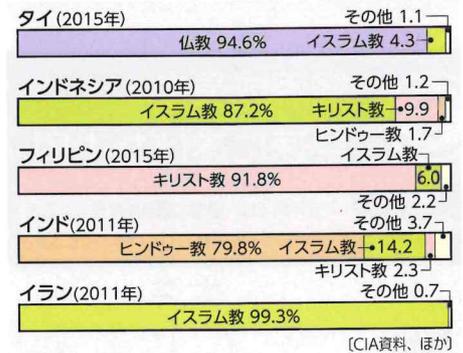
交流によって 広まった宗教

アジアにはさまざまな民族が暮らし、人々が信仰する宗教もさまざまです。それぞれの民族がほかの地域と交流することによって、宗教が各地に広まってきました。仏教は、インドで生まれ、スリランカや東南アジアに広まったほか、シルクロードを通して中国や朝鮮半島、日本へと伝わりました。西アジアや中央アジアで広く信仰されているイスラム教は、アラビア半島で生まれ、インド洋の海上貿易を通して南アジアや東南アジアにも広がりました。インドでは、多くの人がヒンドゥー教を信仰し、フィリピンでは、ヨーロッパの人々の布教活動や植民地支配を通して伝わったキリスト教の信者が多数を占めます。

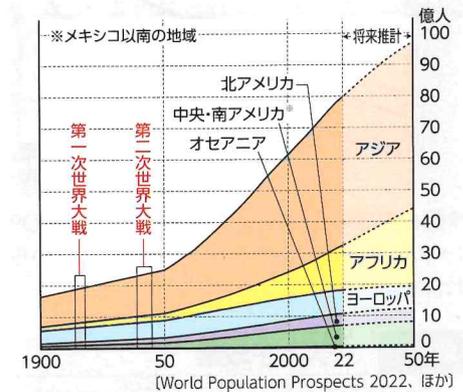
人口の集中と 経済発展

アジアには世界の総人口の6割が暮らし、その多くが季節風の影響で湿潤な地域に集中しています。特に中国とインドという人口が多い国を抱える東アジアと南アジアは、古くから農業が盛んで、両地域で古代文明が栄えました。この二つの文明が栄えた地域の間位置する東南アジアは、近代になって開発が進み、人口が多い地域の一つになりました。

20世紀の後半には、日本に次いで韓国やシンガポールなどが経済発展を遂げ、21世紀にかけて東南アジアや中国が続き、今この動きは南アジアへ広がっています。こうした経済発展は、アジアの豊富な労働力を生かした工業化がもたらしたものです。経済発展を遂げた国々では都市化が進み、シャンハイ(上海)やデリー、ジャカルタなどの巨大都市が、アジアの各地に誕生しています。



↑7 主な国の宗教別人口の割合



↑8 世界の人口の変化 資料活用 1950年以降で、人口が大きく増えている地域に注目しよう。

**確認しよう** アジア州で信仰されている宗教とその主な国を、図7や地図帳で確認しよう。

**説明しよう** アジア州の人口分布の特徴について、気候と農業との関係から説明しよう。



たった数十年の間に、町並みがこんなにも変化したんだね！



1980年代

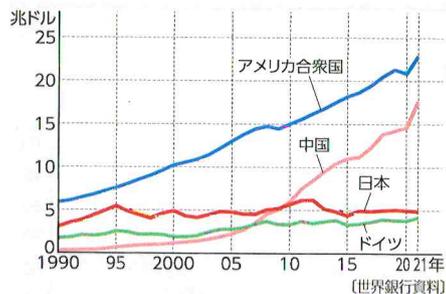


←↑1 **1** シェンチェン(深圳)の変化(中国、コワントン(広東)省) 静かな漁村が広がっていたシェンチェンは、1980年に中国初の経済特区に指定された後、急速に開発が進み、巨大な都市になりました。

### 3

## 経済成長を急速に遂げた中国

**1節の問い** アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



↑2 **2** 主な国の国内総生産(GDP)の変化 GDP(→p.71)は、国の経済の規模を表す際に用いられます。

#### 解説① 一人っ子政策

1組の夫婦の子どもを1人に制限する中国の人口政策のことです。違反した人には罰金などが科されてきました。しかし、この政策はその後見直され、3人まで子どもをもつことが認められるようになりました。

#### 解説② 経済特区

外国企業を招いて工業化するために、税金を安くするなど、特別な制度が設けられた地区のことです。



学習課題

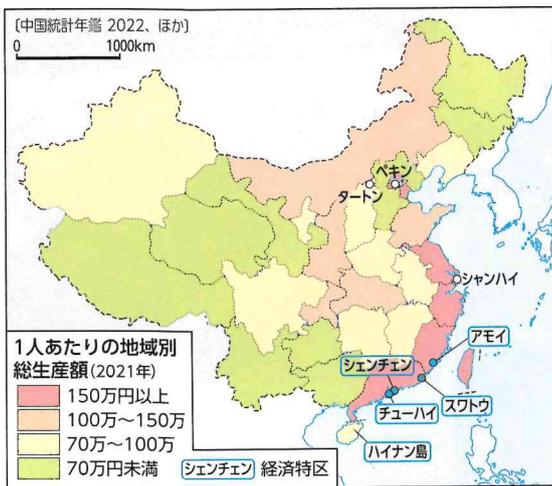
巨大な人口を抱える中国では、急速な経済成長によって、社会にどのような変化と課題が生じてきているのだろうか。

#### 巨大な人口と社会の変化

14億人が暮らす中国は、インドと並んで人口が多い国です。経済の改革に着手した1970年代後半には人口の8割が農村に暮らしていましたが、現在では国民の6割が都市に暮らしています。経済発展によって消費も大きく伸び、国の経済の規模は2000年代後半には日本を上回り、アメリカ合衆国に迫っています。一方、人口抑制のために長く続けられてきた一人っ子政策は、高齢化が進んだことによって見直されましたが、少子化・高齢化に歯止めはかかっていません。

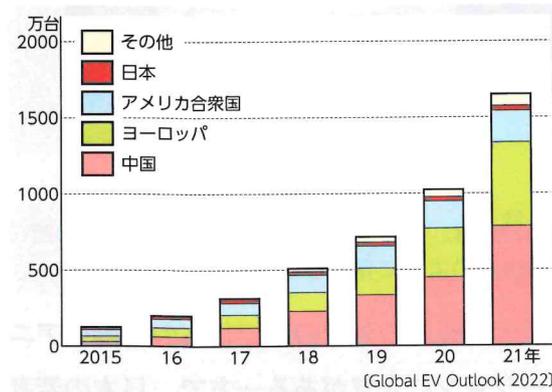
#### 工業化が原動力となった経済発展

国の計画に基づいて経済を運営してきた中国は、1980年代になると、自由な経済活動を取り入れた発展を目指すようになりました。しかし、産業がなかなか成長しないことから、日本や韓国など近隣の国々の発展に学んで、世界との結びつきを大切にするようになりました。また、工業化を進めて輸出を伸ばすには、技術と資金が必要になるため、外国企業を招くことでこれを実現しようとしてきました。沿海部に経済特区を設けることから始まった経済の改革は、しだいに全国に広がりました。特に1990年代から急速な経済成長が始まり、中国で製造された衣類や日用品・家電製品などは、世界で広く使われるようになりました。中国は「世界の工場」とよばれるまでになりました。



↑4 出稼ぎの人で混雑する駅(中国、シャンハイ(上海)、2018年2月) 春節という長期の休みの間に帰省していた人が出稼ぎに戻ってきています。

←3 中国の1人あたりの地域別総生産額



↑5 世界の電気自動車保有台数の変化



↑6 中国各地で建設が進む太陽光発電施設(中国、タートン(大同)、2020年)

都市の発展と  
残された課題

中国では経済発展によって、シャンハイ(上海)やペキン(北京)、シエンチェン(深圳)などは巨大な都市に成長しました。これらの都市間は、高速鉄道や高速道路で結ばれています。都市に暮らす人々は高層アパートに住み、発達した地下鉄網を利用する一方で、自家用車をもつ人も増えました。しかし、このような経済発展は、都市と農村の間や、沿海部と内陸部

- 1 都市に暮らす人々は高層アパートに住み、発達した地下鉄網を利用する一方で、自家用車をもつ人も増えました。しかし、このような経済発展は、都市と農村の間や、沿海部と内陸部
- 2 都市に暮らす人々は高層アパートに住み、発達した地下鉄網を利用する一方で、自家用車をもつ人も増えました。しかし、このような経済発展は、都市と農村の間や、沿海部と内陸部
- 3 都市に暮らす人々は高層アパートに住み、発達した地下鉄網を利用する一方で、自家用車をもつ人も増えました。しかし、このような経済発展は、都市と農村の間や、沿海部と内陸部
- 4 都市に暮らす人々は高層アパートに住み、発達した地下鉄網を利用する一方で、自家用車をもつ人も増えました。しかし、このような経済発展は、都市と農村の間や、沿海部と内陸部
- 5 都市に暮らす人々は高層アパートに住み、発達した地下鉄網を利用する一方で、自家用車をもつ人も増えました。しかし、このような経済発展は、都市と農村の間や、沿海部と内陸部
- 6 都市に暮らす人々は高層アパートに住み、発達した地下鉄網を利用する一方で、自家用車をもつ人も増えました。しかし、このような経済発展は、都市と農村の間や、沿海部と内陸部

地図帳活用

- ① 中国の製品がどこに輸出されているのか、確認しよう。
- ② 中国で大気汚染の激しい都市を確認しよう。

① 電気を使ったモーターで走行し、走行中に温室効果ガスを排出しないことから、環境への負担が小さいという利点があります。

確認しよう  
経済発展のきっかけとなった経済特区の分布と、経済発展の進んだ地域を、図3で確認しよう。

説明しよう  
中国の経済発展に伴う課題について、「収入の差」「環境問題」の語句を使って説明しよう。



↑1 韓国料理の屋台がひしめく市場(韓国、ソウル、2015年)



↑2 韓国の書店に並ぶ日本の漫画(ソウル、2020年)

韓国では、漢字は使わないのかな？



## 4 最も近い隣国、韓国

1節の問い アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



学習課題

最も近い隣国である韓国は、日本とどのような関わりがあるのだろうか。また、産業はどのように発展したのだろうか。

### 日本との関わりが深い韓国の文化

近年、韓国の若者の間で日本の漫画やアニメーションに人気がある一方で、日本の若者の間では韓国の K-POP に人気があります。両国の文化の交流が盛んになり、互いの国を観光する人も増えてきました。朝鮮半島の寒い冬を過ごすための保存食のキムチも、日本の食卓でよく食べられています。

隣り合った韓国と日本には、長く交流をしてきた歴史があります。古代には仏教をはじめ、さまざまな文化が朝鮮半島を通して日本に伝えられました。韓国語はハングルという独自の文字を使いますが、文法や敬語は日本語と似ています。また、食事の際にはしを使うことや、祖先や年長者を大切にすることを重んじる儒教の影響がみられることなど、韓国と日本の文化には似ている点が多くあります。

### 輸出に力を入れて発展した工業

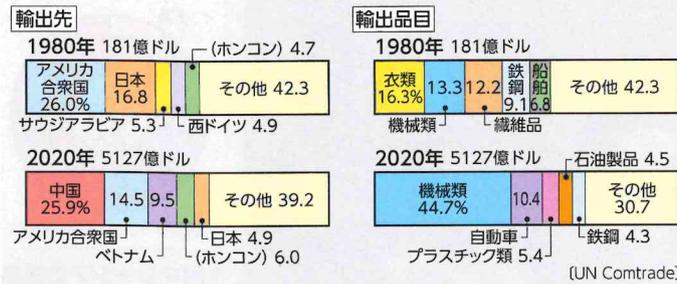
1950年代の朝鮮戦争からの復興に取り組んだ韓国は、日本など外国の資金と技術の援助を受けて、造船や製鉄などの重工業に力を入れました。また、韓国は国土や人口の規模が小さく、国内の需要だけでは限界があるため、輸出に重点を置いた工業化が国の主導で進められました。その結果、めざましい経済発展を1980年代に達成しました。

### 地理プラス 日本と共通した年中行事

韓国では旧暦の8月15日(現在の暦の9~10月ごろ)をチュソクといい、日本のお盆のように家族が集まって墓参りをします。チュソクの前後は長い連休となり、交通機関は帰省する人で大混雑します。韓国では、日本と同じように正月や端午の節句も年中行事として大切にされていますが、旧暦で行われている点が日本と異なります。



↑3 チュソクに墓参りをする家族連れ(韓国、ウルサン(蔚山)、2017年10月)



↑4 韓国の輸出先と輸出品目の変化 (資料活用) 輸出先と輸出品目の変化に注目しよう。



↑5 フランスで開かれた韓国の人気アーティストのライブイベント(フランス、パリ近郊、2019年)

1990年代末にアジア諸国の経済の混乱の影響を受けて、韓国は深刻な経済危機に陥り、産業構造の見直しを迫られました。そこで、技術革新に速やかに対応して、情報通信技術(ICT)産業の育成に取り組む、経済は力を取り戻しました。

5 現在の韓国では、ゲームや音楽、ドラマ、映画などの制作・販売を行うコンテンツ産業に力が入れられています。広い市場を求めて、このようなコンテンツは国内だけでなく、世界中に配信・提供され、多くの人に楽しまれています。

ソウルへの一極集中とその課題

10 韓国では、経済発展に伴って、多くの人が仕事を求めて農村から都市へ移動しました。特にソウルとその周辺には、総人口の半分ほどが暮らすようになりました。国の機関や主要な企業の本社のほとんどがソウルにあり、人口と政治や経済の一極集中が進んでいます。そのため、ソウルと農村の間には、就業の機会や収入などにおいてさまざまな格差が生じ、その改善が求められています。また、ソウルとその周辺に暮らす人々の生活においては、人口集中による住宅価格の高騰で、家を購入できない人が増加し、問題になっています。

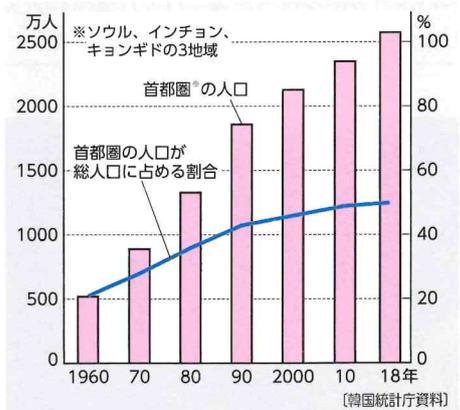
未来に向けて 平和への道を探る朝鮮半島 平和・安全

朝鮮半島は、かつて日本の植民地でしたが、第二次世界大戦後に北緯38度より北は朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)、南は大韓民国(韓国)として、それぞれ独立しました。1950年には両国の間で朝鮮戦争が起こり、民間人を含む多くの人命が失われました。そして、1953年に休戦協定が結ばれた後も、南北に分断されたまま、両国が対立する状態が続いてきました。近年、両国の首脳会談が行われ、朝鮮半島の平和に向けた歩み寄りがみられるようになったものの、軍事力の強化を図る北朝鮮が弾道ミサイルの発射を繰り返すなど、両国の緊張関係はなかなか改善されていません。

→6 南北分断の象徴 パンムンジョム(板門店) (小歴公)

地図帳活用

韓国と日本のつながりを確認しよう。



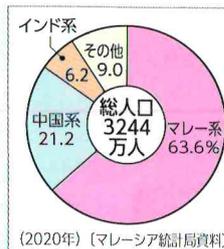
↑7 ソウルとその周辺の人口の変化

日本と韓国の文化に共通している点を、写真1・3や本文で確認しよう。

韓国の産業は、どのように発展していったのか、時系列順に説明しよう。



↑1 クアラルンプールの街角(マレーシア)



↑2 マレーシアの民族構成

民族や服装がさまざまで、日本の街角とは違う感じだね!



5

経済発展を目指す  
東南アジア

1節の問い アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

解説① プランテーション

主に熱帯にみられる大規模な農園のことです。輸出向けの作物を、多くの労働者を雇って大量に栽培しています。歴史的には、植民地(→p.84)支配を行ったヨーロッパ諸国やアメリカ合衆国の企業などが運営してきました。



↑3 プランテーションでの油やし(マレーシア、2015年)

地図帳活用

インドネシアにおける森林の変化を確認しよう。



学習課題

東南アジアの国々は、ほかの地域の国々との関わりのなかで、どのように工業化を進め、経済を発展させてきたのだろうか。

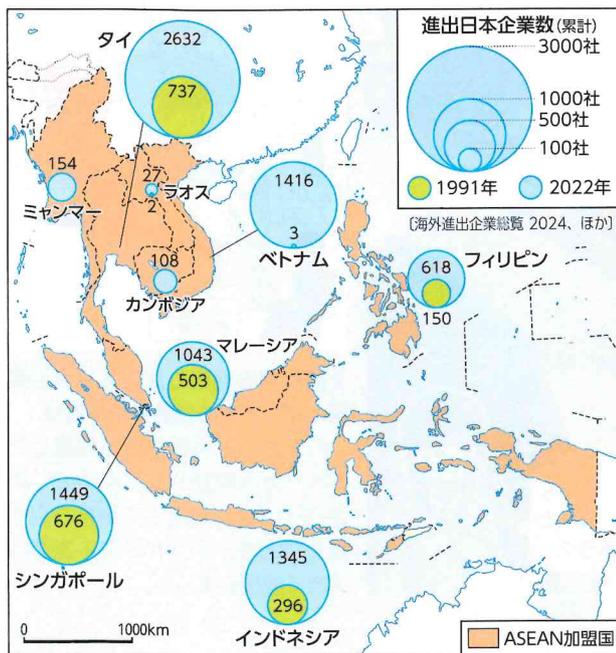
共に暮らす  
多様な民族

東南アジアには6億人(2022年)あまりが暮らしています。その民族は多様で、マレー系の人々のように、長くその地域で暮らしてきた民族のほかに、中国やインドから移り住んできた人も多くいます。このうち華人とよばれる中国系の人々は、商業など経済のさまざまな分野で活躍してきました。また、文化も多様で、仏教、イスラム教、キリスト教、ヒンドゥー教などの宗教が信仰されています。東南アジアで進む経済発展は、こうした多様性を反映して、地域ごとに特色があります。

伝統的な稲作と  
輸出用の作物生産

東南アジアでは、季節風による豊富な降水を利用してつくられる米が主食となりました。インドシナ半島の平野やジャワ島が、その主要な産地となっています。1年を通して気温が高いことから、かんがいがあった地域では、同じ土地で年に2回、稲を栽培する二期作も行われます。また、タイとベトナムは米の輸出を盛んに行っています。

天然ゴムのような輸出を目的とした作物も、東南アジアのプランテーションで栽培されてきました。植物油などの原料になる油やしは、マレーシアとインドネシアで栽培地が拡大しています。フィリピンではバナナの生産が盛んで、ベトナムではコーヒー豆の生産が伸びています。一方で、プランテーションをつくるために多くの森林が伐採され、熱帯林減少の原因の一つになっています。



↑5 タイに進出した日本の自動車メーカーの組み立て工場(バンコク近郊)

解説② 東南アジア諸国連合(ASEAN)

戦争や紛争などの問題を抱えていた東南アジア地域の安定を目指して、1967年に結成された地域共同体のことで、2022年現在、10か国が加盟しています。

←4 東南アジアに進出した日本企業数の変化



工業化の波と ASEAN

東南アジアにおける工業の発展は、まずシンガポールで始まりました。それに続きマレーシアでは電気機械工業を中心に、タイでは自動車産業を中心に工業が発展しました。これらの国は、製品を輸出することを目的とした工業団地をつくり、日本をはじめとした外国企業を招くことで工業化を進めました。近年では、より安い賃金で労働者を雇えるインドネシアやベトナムなどに進出する外国企業が増えています。

東南アジア諸国連合(ASEAN)は、結成されて半世紀がたち、東南アジアのほとんどの国が加盟しています。2015年にはASEAN経済共同体(AEC)を創設してASEAN域内の貿易を自由化し、人の交流を活発にしようとしています。また、域外の日本や中国、オーストラリアなどとも協力し、一層の経済発展を目指しています。

都市化とその課題

東南アジアの国々では、さまざまな産業が都市に集まったことで、より収入の高い仕事を求めて、農村から都市へと、多くの人々が移住しました。しかし、彼らのなかには都市で安定した仕事に就くことができず、粗末な建物が密集し、上下水道などが整備されていないスラムに住む人も少なくありません。また、人口が集中する大都市では、大量の自動車やバイクによる交通渋滞や、これらの排ガスによって大気汚染が生じていることから、鉄道の建設や、多様な交通手段の活用が進められています。



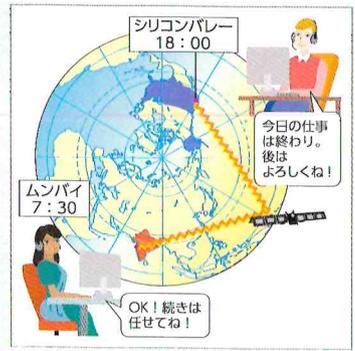
↑6 高層ビル群とスラム(フィリピン、マニラ) 線路沿いに粗末な建物が密集しています。



↑7 水上バスで通勤する人々(タイ、バンコク、2015年) 運河が発達しているバンコクでは、水上バスも活躍しています。

東南アジアに多くの日本企業が進出している様子を、図4や写真5、本文で確認しよう。

東南アジアで工業化が進んだ理由を説明しよう。



インドのコールセンターで働く人たちは、どこに住んでいる人とやりとりをしているんだろう？



↑2 時差を利用したアメリカ合衆国とインドとの仕事のやりとり

ICT産業が世界で最も発達したアメリカ合衆国(→p.101)から、時差(→p.16)を利用して業務を引き継ぐことで、インドのICT産業は大きく成長しました。

↑1 コールセンターで働く人々(インド、ムンバイ) アメリカ合衆国の消費者が、企業のコールセンターに電話をかけると、英語で対応するオペレーターは、実はインドにいるということも珍しくありません。

6 産業発展と人口増加が急速に進む南アジア

1節の問い アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

学習課題 人口増加の続く南アジアの国々では、どのような産業が発展しているのだろうか。

解説 情報通信技術 (ICT) 産業

パソコンやインターネットなど、情報技術 (IT) や通信技術 (CT) を用いた産業のことです。インドではソフトウェアとよばれるコンピュータを動かすプログラムの開発・輸出が盛んです。

南アジアで成長する産業

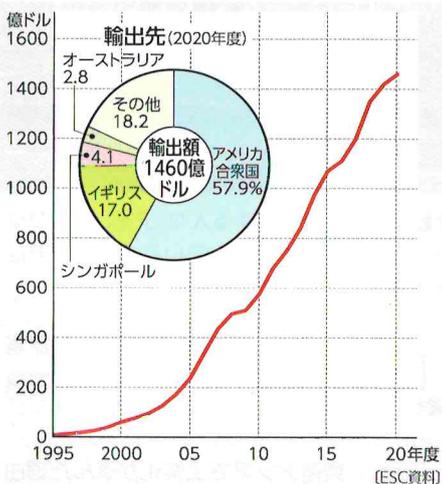
かつてインドでは、国内で生産される綿花や鉄鉱石、石炭などを原料にして、綿工業や製鉄業が発達していました。1990年代に入って、多くの外国企業がインドに進出すると、自動車、化学、医薬品などの工業が発展しました。近年では、情報通信技術 (ICT) 産業が急速に成長しています。

インドで ICT 産業が成長した背景には、英語や数学の教育水準が高いことや、州や国から技術者育成のための援助があること、そして、このような新しい産業はカーストの影響をあまり受けないため、能力があれば就職できることなどがあります。現在、国内の各地には ICT に関連する工業団地がつけられ、多くの人が働いています。

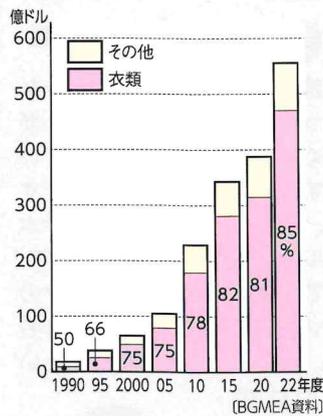
人口が多く賃金の安いバングラデシュでは、外国企業が参入し、工場の移転が進んでいます。特に、ミシンなどを使って衣料品を縫う縫製業が成長しており、衣類の輸出が増えています。一方、山がちで平野の少ないネパールでは、道路などの社会基盤の整備が難しいことから外国企業の進出は少なく、産業の発展が遅れています。

多くの人口を支える農業

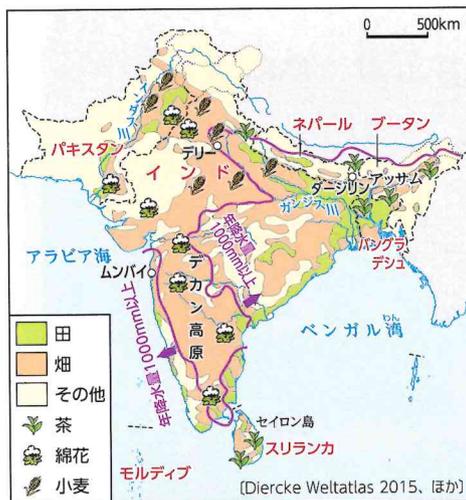
南アジアでは、各地の気候を生かした農業がみられます。降水量の多いガンジス川下流域のヒンドスタン平原では稲作が盛んで、米を主食として食べます。降水量



↑3 インドの ICT 産業の輸出額の変化と輸出先

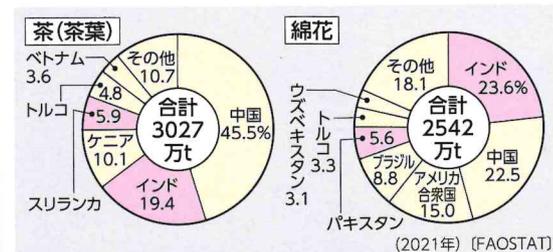


↑4 バングラデシュの総輸出額に占める衣類の割合



←5 南アジアの農業 資料活用 降水量が多い地域と少ない地域でそれぞれ栽培されている作物に注目しよう。

↓6 茶と綿花の生産 小 産 公 資料活用 南アジアで茶と綿花の生産量が多い国に注目しよう。



↑7 斜面に広がる茶畑(インド、ダージリン、2017年10月)



↑8 読み書きを習う農村部の女性たち(インド)

の少ない北西部では小麦の栽培が盛んで、小麦粉でつくったナンなどが主食です。しかし、これら農産物が人口増加によって不足することが心配されたので、作物の品種改良や化学肥料の普及が進められました。その結果、インドやパキスタンでは、米や小麦の生産量が大幅に増え、食料不足の問題は解消に向かっています。また、輸出用の作物の栽培も盛んで、降水量の多いダージリンやアッサム地方、スリランカの高地では茶、降水量の少ない北西部やデカン高原では綿花が生産され、世界各地に輸出されています。

経済発展によるインドの課題

インドでは、経済発展が進む都市部でもエアコンはあまり普及していません。暖房には石炭が広く使われるため、冬になると大気汚染が深刻になります。

発展から取り残された農村部では、電力やガスの普及が進んでおらず、現在も燃料をまきなどに依存しています。また、子どもを重要な労働力とみなす考え方が残っており、学校に通えないまま大人になる人も多くいます。そのような人々を含め、すべての国民に教育を受けさせ、貧困層を減らすための取り組みが行われています。



↑9 大気汚染がひどいなかを移動する人々(インド、デリー、2021年11月) 暖房を使い始めると、大気汚染がひどくなり始めます。特に北部で深刻です。

確認しよう

南アジアの国々で、急速に輸出額が伸びている産業を、図3・4で確認しよう。

説明しよう

南アジアの国々で、ICT産業や縫製業が発展した背景を説明しよう。



どうしてこんなに街が  
発展できたんだろう？

↑1 ペルシア湾につくられた人工島パーム・ジュメイラ(アラブ首長国連邦、ドバイ、2016年)

**声** ドバイに暮らす人の話

昔のドバイには、砂漠しか  
なかったのに、今では高層ビルが  
たくさんある大都市になってい  
ます。ドバイは一年中暑いですが、  
ショッピングセンターやホ  
テルのなかは冷房が効いていて、  
とても快適です。砂漠のなかの  
リゾート(保養地)としても有名  
で、パーム・ジュメイラとい  
うやしの  
木の形をし  
た人工島に  
は、高級ホ  
テルや別荘  
が立ち並ん  
でいます。



**7** 資源が豊富な  
中央アジア・西アジア

1節の問い アジア州では、急速に経済が成長したこと  
によって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



↑2 ペルシア湾沿岸の大規模な石油精製施設  
(サウジアラビア、ダンマン近郊)

**学習課題** 中央アジアや西アジアの国々の発展は、どのような産業によって  
生み出されたのだろうか。

**人々の生活を豊かにした原油**

中央アジアから西アジアにかけては砂漠が多  
く、栽培できる作物は限られ、工業化も遅れて  
いました。しかし、サウジアラビアやアラブ首長国連邦などのカス  
ピ海やペルシア湾に面した国々は、多くの油田をもっています。そ  
こで採掘された原油は、タンカーやパイプラインでアジア諸国や北  
アメリカ、ヨーロッパなどへ運ばれています。このように西アジア  
の産油国は、原油や、原油からつくられるガソリン・灯油などの石  
油製品を輸出し、それで得た利益で産業を発展させてきました。そ  
のため、アラブ首長国連邦のドバイのように、砂漠のなかに高層ビ  
ルが立ち並ぶ都市が現れ、豊かな生活を送る人々が増えています。

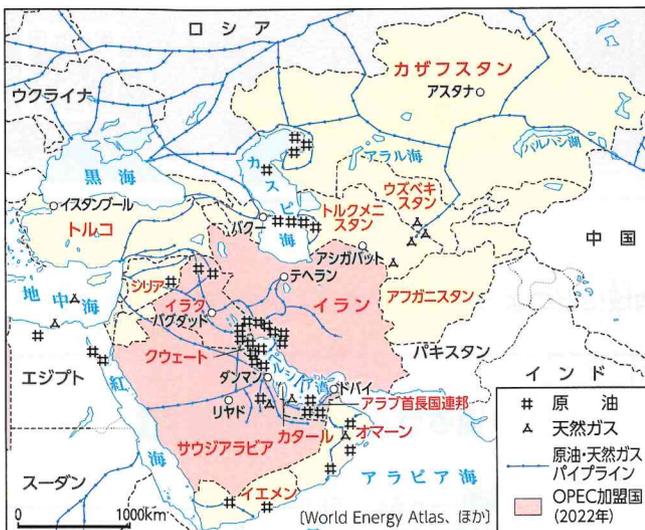
**原油の輸出と新たな産業**

西アジアの主な産油国は、石油輸出国機構  
(OPEC)に加盟して原油価格や生産量を決めてい  
ます。そのため、日本のように、原油を輸入に頼る国々は、原油価  
格や生産量の変化によって大きな影響を受けることもあります。

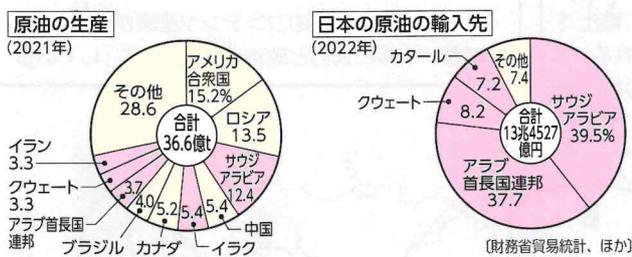
西アジアの産油国は、原油などの輸出で得られた利益を、交通  
網・通信網の整備や教育などにも使っています。開発に伴う都市の  
建設現場では、労働力が不足し、南アジアなどからの外国人労働者  
が多く雇われています。

**解説①** **パイプライン**  
原油や天然ガスなど、液体や気体を長距離輸  
送するための管状の施設のことです。大量輸送  
が可能で、輸送費用を抑えることができます。

**解説②** **石油輸出国機構(OPEC)**  
産油国が経済発展を目指して、みずからの利  
益を守るために1960年に結成された国際機関  
のことです。2024年1月現在、西アジアやア  
フリカの産油国など、12か国が加盟しています。



↑3 中央アジア・西アジアの原油・天然ガス



↑4 原油の生産と日本の原油の輸入先

また、将来的な資源の枯渇などに備えて、新しい産業を發展させ、原油だけに依存しない社会を目指す国も増えています。例えば、アラブ首長国連邦では、観光産業などの發展に力を入れています。一方、同じ西アジアでもイエメンのように原油の産出が少ない国々では、経済の發展が遅れています。

### 豊富な資源と地域の安定

中央アジアと西アジアは、原油のほかにも、天然ガスやレアメタルなどの鉱産資源に恵まれた地域です。このため、さまざまな国や企業がこの地域の開発に乗り出し、ときには資源をめぐる利害関係の対立から、紛争の火種にもなってきました。中央アジアと西アジアには、国内の政治が民主的に行われていないという問題を抱える国も多く、シリアのように、争いに巻き込まれるなどして、他国に逃れなければならない難民が発生している地域もあります。

資源を輸入に頼る日本にとって、この地域の安定は重要な課題であることから、紛争地域の復興に向けた経済的支援や、難民キャンプへの生活支援など、さまざまな取り組みを行っています。

## 未来に向けて

### サウジアラビアで進む女性の社会進出

人権・多文化

中央アジアと西アジアの多くの国々では、イスラム教が信仰されています(→p.41)。これらの地域では、女性は外出の際に布で頭や肌を覆うことが義務づけられるなど、宗教的な背景から、ほかの地域に比べて女性に対して制限が多く課せられています。しかし近年、サウジアラビアでは、それまで認められていなかった女性への運転免許証の交付や、男性保護者の許可なしに女性がパスポートを取得し、旅行することなどが認められるようになりました。また、さまざまな職種に女性が就けるようになり、女性の社会進出が国内の経済發展につながることを期待されています。

→5 自動車教習所で講習を受ける女性(サウジアラビア、ダーラン、2018年) 国営の石油会社が設置した自動車教習所で、女性社員などが受講しています。



① 一般的に、国・地域どうして同じ問題に対して意見が食い違い、対立している状態のことを紛争といいます。同じ国・地域のなかの武力による争いは内戦といいます。



↑6 シリアでの内戦から難民キャンプに逃れてきた人々(レバノン、2022年) 小歴公



確認しよう

日本の原油の輸入先である西アジアの国名と、その位置を、図3・4で確認しよう。



説明しよう

中央アジアや西アジアの国々の發展と資源との関係について説明しよう。



- 1 節の問い 見方・考え方 地域の特徴 (→ 巻頭 8)
- アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

節の振り返り 1 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう 知識 地図帳活用

- A ~ F にあてはまる国名を答えよう。
- ㉑ ~ ㉓ にあてはまる山脈名、河川名、半島名を答えよう。
- ① ~ ⑩ にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

D (→ p.52 ~ 53)

- 人口の増加を抑えるための①が見直された
- 工業製品は世界中に輸出され、「②」とよばれる
- 都市部と農村部との間で経済格差が広がる

韓国 (→ p.54 ~ 55)

- 独自の文字③を使用
- 日本と共通点が多い文化、儒教の影響がみられる
- ゲームや音楽などのコンテンツ産業が発展
- 首都ソウルに人口と政治や経済が④している

中央アジア・西アジア

(→ p.48 ~ 51, 60 ~ 61)

- 砂漠が多い
- イスラム教が多くの人々に信仰されている
- 原油などの資源が豊富
- 産油国が加盟する⑤は原油価格や生産量を決める

南アジア (→ p.51, 58 ~ 59)

- ⑥では人口の8割がヒンドゥー教徒
- 米や小麦のほか、輸出用の作物である茶や綿花の産地
- 近年⑥では、英語や数学の教育水準が高いことなどを背景に、⑥が成長している

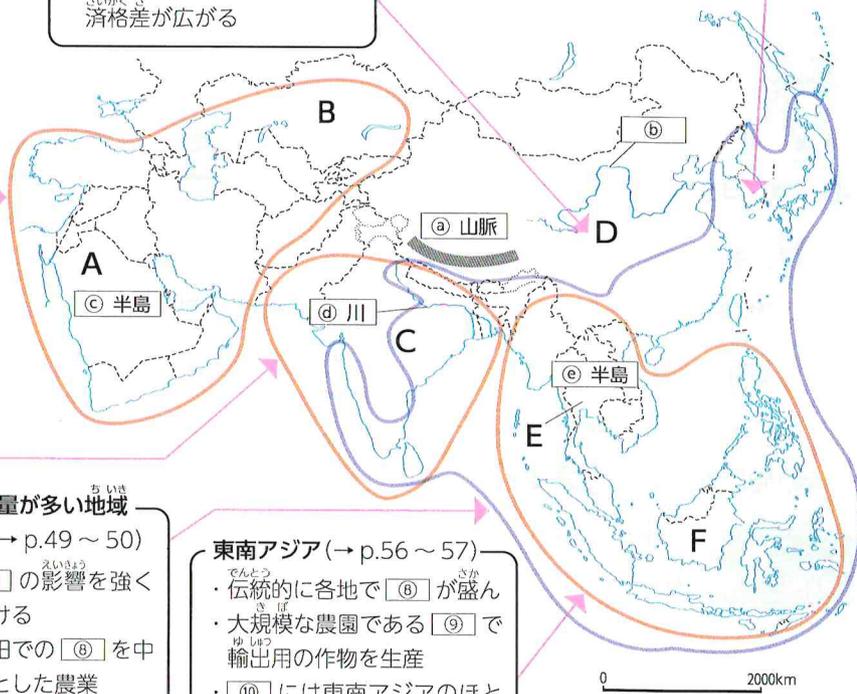
降水量が多い地域

(→ p.49 ~ 50)

- ⑦の影響を強く受ける
- 水田での⑧を中心とした農業
- 米が主食

東南アジア (→ p.56 ~ 57)

- 伝統的に各地で⑨が盛ん
- 大規模な農園である⑩で輸出用の作物を生産
- ⑩には東南アジアのほとんどの国が加盟



↑ 1 白地図を使ったまとめ

節の重要語句 簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

- |                                     |                                 |                                 |                                   |  |
|-------------------------------------|---------------------------------|---------------------------------|-----------------------------------|--|
| <input type="checkbox"/> 季節風(モンスーン) | <input type="checkbox"/> 遊牧     | <input type="checkbox"/> 一人っ子政策 | <input type="checkbox"/> 儒教       | <input type="checkbox"/> 東南アジア諸国連合 (ASEAN) |
| <input type="checkbox"/> 雨季         | <input type="checkbox"/> 仏教     | <input type="checkbox"/> 経済特区   | <input type="checkbox"/> 一極集中     | <input type="checkbox"/> スラム               |
| <input type="checkbox"/> 乾季         | <input type="checkbox"/> イスラム教  | <input type="checkbox"/> 世界の工場  | <input type="checkbox"/> 華人       | <input type="checkbox"/> 情報通信技術 (ICT) 産業   |
| <input type="checkbox"/> かんがい       | <input type="checkbox"/> ヒンドゥー教 | <input type="checkbox"/> 経済格差   | <input type="checkbox"/> 二期作      | <input type="checkbox"/> パイプライン            |
| <input type="checkbox"/> 稲作         | <input type="checkbox"/> キリスト教  | <input type="checkbox"/> 環境問題   | <input type="checkbox"/> プランテーション | <input type="checkbox"/> 石油輸出国機構 (OPEC)    |
| <input type="checkbox"/> 畑作         | <input type="checkbox"/> 都市化    | <input type="checkbox"/> ハングル   | <input type="checkbox"/> 工業団地     | <input type="checkbox"/> 難民                |

国・地域	経済成長の背景	経済成長によって生じた影響 【○…よかった点、▲…課題点】
中国	①	②
韓国	<ul style="list-style-type: none"> <li>外国の資金・技術の援助</li> <li>ICT産業の育成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ ICT産業の発展で経済は力を取り戻した</li> <li>▲人口と政治や経済がソウルに一極集中し、農村との格差が生じた</li> </ul>
東南アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>工業団地に外国企業を招く</li> <li>ASEANの結成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○工業化により、都市部の産業が発展し、ASEAN経済共同体(AEC)などによって貿易や交流が活発化</li> <li>▲都市にスラムができたり、交通渋滞や大気汚染などの問題が生じたりした</li> </ul>
南アジア	③	④
中央アジア・西アジア	<ul style="list-style-type: none"> <li>原油や石油製品の輸出</li> <li>恵まれた鉱産資源</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○原油や石油製品の輸出で得た利益で、産業を発展させ、交通網・通信網の整備や教育などに生かした</li> <li>▲資源が少ない国々の発展の遅れや、鉱産資源をめぐる利害関係の対立が生じる</li> </ul>

↑2 アジア州における経済成長の背景とその影響をまとめた例 思考ツール 巻頭9 マトリックス

1節の問いについて、図でまとめよう

◆この節の学習を振り返りながら、図2の①～④を埋めて、アジア州における経済成長の背景と地域への影響についてのまとめを完成させよう。

2節の問いについて、考えを深めよう 対話

- ◆図2をもとに、アジア州の経済成長とそれによる地域への影響を表す写真を、教科書やウェブサイトなどから1枚選ぼう。
- ◆グループになって、選んだ写真とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの「写真で眺めるアジア州(→p.46～47)」をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。

3節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう

◆図2と②をもとに、アジア州の特色を文章で簡単にまとめよう。

**1節の問い**

○ アジア州では、急速に経済が成長したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

○ **ヒント1** アジア州に共通する経済成長の背景や特徴は？

○ **ヒント2** 経済成長によってよかった点と課題点は？

**振り返り** **主体的な学び**

- 節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことが
  - よくできた できた あまりできなかった
  - よくできた点や改善したい点などを書き出そう。
- 節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。